



第8回高分子分析討論会報告【2003】

2003年11月13日(木)・14日(金)の2日間、工学院大学新宿校舎において標記討論会が高分子分析研究懇談会の主催で開催された。2001年に東京で開催されて以来、2年ぶり2度目の東京での開催であり、約280名が参加し、特別講演1件、ポスター発表71件、計72件の講演があり、例年のごとく盛況であった(写真)。

ポスター発表は2日間の期間中、午前・午後の部、計4回に分けて行われ、3分間のプレビュー発表に続いて1時間半の討論時間が設けられる例年のスタイルで実施された。発表内容はSECをはじめとするクロマトグラフィーによる分析、NMRを用いた分析、熱や酸・アルカリ、超臨界・亜臨界流体を用いた合成高分子の分解分析に加えて、一昨年、島津製作所の日中耕一氏がノーベル賞を受賞したことで広く名前を知られることとなったMALDI-TOFMS法を用いた合成高分子の分析例が数多く報告され、同手法が合成高分子の分析においても適用範囲を着実に広げていることがうかがえる。

初日の午後には、「Liquid Chromatography Analysis of Synthetic Polymers」と題して韓国浦項工科大学の張台鉞教授による特別講演があり、温度勾配吸着クロマトグラフィー(TGIC)や、臨界条件液体クロマトグラフィー(LCCC)など、SECとは異なる分離挙動を示すLC手法を効果的に用いて種々の合成高分子の分離を行っている張教授の研究の一端を知ることができた。

さらに2日目の午後には、「高分子分析討論会における分析技術の動向2」と題して、寶崎達也氏(化学物質評価研究機構)、香川信之氏(東ソー)、松田裕生氏(帝人)をパネラーとする総合討論が行われた。今年は三つの分野、すなわち、クロマトグラフィー(構造不均一性の解析)に関する分野(宝崎氏)、クロマトグラフィー(成分分析)に関する分野(香川氏)、NMRに関する分野(松田氏)について、各パネラーが今までの高分子分析討論会において報告された研究内容の中から注目すべき報告を紹介しながら総括し、今後の方向性について議論を深めた。

閉会に先立ち、「ポスター賞」の発表が行われた。「ポスター賞」は高分子分析討論会実行委員、高分子分析研究懇談会運営委員および発表者により、優秀と認められたポスター発表に対して送られる賞であり、講演タイトルおよび受賞者は次の10件であった(発表番号順、敬称略)。

- ① ポリアミドの末端基誘導化GPC-UV分析
(豊田中研)福本圭子
- ② 超臨界メタノール分解を利用する紫外線硬化樹脂のネットワーク構造解析
(名大院工)近藤洋輔
- ③ MALDI-MSによるポリプロピレン材料中の高分子量光安定剤の直接定量分析
(名大院工)大谷 肇
- ④ SEC/MALDI-MSによる合成高分子の精密な分子量分布の解析
(産総研環境管理)佐藤浩昭
- ⑤ 化粧品に配合されるアミノ変性シリコーンの分析
(ライオン分析センター)杉山淳一
- ⑥ 超偏極Xe-NMR法による炭素材料の細孔解析

(新日本製鐵先端研)齋藤公児

⑦ アルカリ性溶離液を用いた逆相クロマトグラフィーによるアニオン性ポリマーに含まれる添加剤の分析

(日立化成総合研)海野晶浩

⑧ 標準ポリマーを用いたDIOS-MS用プレートの性能評価

(産総研環境管理)清野晃之

⑨ 熱分解とNMR法の組合せによるアクリル樹脂分析法の検討

(旭化成)大槻 暁

⑩ MALDI-TOFMSを用いたエポキシ樹脂の硬化機構解析

(東レリサーチセンター)野田明日香

来年の開催場所は名古屋の予定であるが、本討論会は近年特に多種・多様となってきた高分子を対象とする分析手法について、分析法の実用的側面について議論を深めることができる国内では貴重な会となっており、今後も一層活発な活動が期待される。なお、講演要旨集に残部がありますので実費(3,000円)にて販売いたします。希望の方は衣笠晋一実行委員長までご連絡ください。

〔住友化学工業 筑波研究所 岡田明彦〕



All Rights Reserved, Copyright (c) 2003, THE JAPAN SOCIETY FOR ANALYTICAL CHEMISTRY